

内視鏡室における業務の実態調査

朝倉医師会病院 外来

○重光由紀 星野尚美 上野博文 橋本清美 野村喜衣 秋吉きのみ

【目的】

内視鏡室業務は、内視鏡技師4名とパート看護師1名で1日平均2.9名のスタッフで業務を行っている。上部内視鏡検査1日平均7.1件、下部内視鏡検査1日平均4件、治療内視鏡検査の1件の平均所要時間は胆膵内視鏡検査が1時間12分01秒、ESDは2時間55分05秒かかっている。治療内視鏡検査は手技的に難易度の高い手技を要求され、出血や穿孔等の合併症も少なくないため、偶発症を視野に入れた患者管理・安全管理が必要なため、常に緊張と不安の中で業務を行っている。治療内視鏡検査は複数重なることが多く、勤務時間内に終了せず超過勤務が発生している。

内視鏡業務内容を分析することで「忙しさ」の原因を明確化し、内視鏡業務内容の実態を調査したので報告する。

【研究方法】

1. 調査期間：平成28年7月～10月
2. 調査時間：業務開始（内視鏡準備開始）から検査終了まで（超過勤務を含む）
パート看護師：9時から13時まで
3. 調査対象：内視鏡技師4名、パート看護師1名
4. 方法：参加観察方法にてタイムスタディ法（他計式）にてデータ収集
5. データ分析方法：日本看護協会看護婦職能委員会作成の看護業務旧区分表を参考に、独自に内視鏡業務区分表を作成し、量的に単純計算を行う

【結果】

- ・1日の業務量：直接看護55%、間接看護9%、洗浄業務18%、管理業務3%、その他15%
スタッフ5名の結果にばらつきはなかった。
- ・業務区分の結果
直接看護：検査介助29%、観察23%、患者の安全・安楽23%
- ・タイムスケジュール表より：重複した業務を行う介助が多く、それに伴い緊張の連続性が見えた。
- ・同じ内視鏡検査でも患者により内容が異なるため、件数・検査時間では均一化したデータとして表すことができなかった。

【考察】

「忙しさ」の原因は、洗浄業務に要する時間の長さではないかと予測していたが、実際は直接看護が最も多くの時間を占めていた。日本内視鏡技師会が推奨する内視鏡看護に関するガイドラインにある「内視鏡検査・治療が安心してよりよく受けられるように支援する」という役割は果たしているためだと考える。直接看護の観察と検査介助、患者の安全・安楽業務はすべて検査を担当した看護師が一人で行っているのが現状である。直接看護の時間は看護師本来の仕事であり、時間を短縮することはできない業務である。時間の短縮をするのではなく、看護の質を落とさずに、一人に集中している業務量を削減することはできないかを考えた。基石らは「複数人で作業することで、精神的・身体的な安定が図れ、患者への安全・安心な医療が提供できる」と述べている。

直接看護業務を①介助業務②患者観察・薬剤投与③記録・処置・患者固定に分けることで、人員の配置を明確にできた。人員の適切な配置には、内視鏡看護ガイドラインを取り入れた専門の段階的教育「内視鏡クリニカルラダー」の活用が内視鏡看護師の育成にも生かせるのではないかと考える。